第九講　接続助詞⑵／「て」の識別／格助詞

接続助詞⑵（て・で・に・を・つつ・ながら・ものの・ものから・ものゆゑ・ものを・が・して）

★「て」の用法＝単純接続

「　　　」形＋て

★「で」の用法＝「　　　」接続

「　　　」形＋で
（〜　　　）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　次の①〜⑤の傍線部には、「で」とすべきところを、誤って「て」としたものが一つある。誤っているものを選べ。

①　何わざにつけても
②　日の出でてやうやう南にめぐり給へば、
③　さらにかなはて、
④　思ひ乱れてこそ侍りけめ
⑤　さだめて彼の御国にこそは

問二　「見せで」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　見せて
イ　見せられて
ウ　見えず
エ　見せないで
オ　見えて

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「に」・「を」の用法＝①順接（～ので・から）　②逆接（～のに・けれど）　③単純接続（～ところ・と）

「　　」形＋に・を

★「つつ」の用法＝①反復（～ては）　②継続（～し続けて）

「　　」形＋つつ

★「ながら」の用法＝①逆接（**～のに**）　②同時（**～ながら**）　③**そのまま**　④**全部、～中**

〔例題一〕　次の傍線部の訳を、後の選択肢の中から選べ。

①　身はいやしながら、母なむ宮（＝皇族）なりける。

②　すべて折につけつつ一年ながらをかし。

③　涙にむせびながら申すやう…

④　「こなたに入り給へ」と、御簾の内ながらのたまふ。

ア　～のに　　イ　～ながら　　ウ　～のまま　　エ　全部、～中

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**「ものの」の用法＝逆接（〜のに）**

「　　　」形＋ものの

★**「ものから・ものゆゑ」の用法＝①逆接（〜のに）**　②順接（〜ので）

「　　　」形＋ものから
　　　　　　ものゆゑ

★**「ものを」の用法＝①逆接（〜のに）**　②順接（〜ので）　③〈終助詞として**文末で**〉詠嘆**（〜のになあ）**

「　　　」形＋ものを

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「て」の識別

【識別対象】

1　接続助詞「て」

2　完了の助動詞「つ」の「　　」形か「　　」形

〈見分け方〉＝「　　」に「　　」**が有るか無いか**を確認。

（＊上〔＝接続〕はどちらも連用形）

1　「　　」＝接続助詞「て」

2　「　　」＝完了の助動詞「つ」

※例外　「**て**ば」「**て**ばや」の「**て**」は「　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

格助詞（が・の・を・に・へ・と・より・から・して・にて）

★「の」の用法

① **主格**（＝～　　　）
　体言の…用言

② **連体（修飾）格**（＝～　　　）
　体言の…体言

③ **同格**（＝～　　　）
　体言の……［　　　　形］～～～。

（例）白き花**の**小さきあり。

④ **準体格**（＝～　　　）

⑤ **連用（修飾）格**（＝～　　　）

○「　　　」中の「の」で「～　　　」と訳せる。
○「　　　」の「の」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「が」の用法

「の」と同じ。ただし、**「が」には「連用（修飾）格」の用法はない。**

※同格の「が」

連体形 **が**……連体形〜〜〜。　→　各連体形の下に**同じ体言**が補えて文意が通じる。

（例）いとやむごとなき際にはあらぬ**が**、すぐれて時めき給ふありけり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題二〉 次の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを後の選択肢の中から選べ。

① いかなれば四条大納言のはめでたく、兼久がはわろかるべきぞ。
② いかなる人の御馬ぞ。
③ 惟喬の親王、例の狩しにおはします供に、馬の頭なるおきな仕うまつれり。
④ 月のおもしろかりける夜、みそかに御息所たちの御曹司どもを見歩かせたまひけり。
⑤ 夢に、いと清げなる僧の、黄なる地の袈裟着たるが来て、…

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

①＝　　②＝　　③＝　　④＝　　⑤＝

問三 「よろづの虫の、恐ろしげなるを取り集めて、…」の二重傍線部の格助詞「の」と同じ用法の「の」を、次の①～④の傍線を施した「の」のうちから一つ選べ。

① この姫君ののたまふこと
② 男の童の、ものおぢせず、いふかひなきを召し寄せて、
③ 箱の虫どもを取らせ、
④ よろづのもとどもをたづねて、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「より」の重要な3つの訳

①　経由（＝～　　　）

　起点（＝～から）で訳せた時、注意！

（例）木の間より洩り来る月の影

②　即時（＝～　　　）

「　　　」形＋より→「即時」から考える。

（例）名を聞くより、やがて面影は推しはからるる心地するを…。

③　手段・方法（＝～　　　）

「　　**手段**」が多い。

※「　　　」（＝徒歩で）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部と同じ用法のものを次の中から選べ。

徒歩よりまうでけり。

1　神代より　吉野の宮に　あり通ひ

2　つぎねふ　山城路を　人夫の　馬より行くに

3　我よりも　貧しき人の　父母は　飢ゑ寒ゆらむ

4　家づとに　貝を拾ふと　沖辺より　寄せ来る波に　衣手ぬれぬ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「して」の重要な３つの訳

①　手段（＝〜　　　　）

②　共同（＝〜　　　　）

③　使役の対象（＝〜　　　　）

（例）人して、惟光召させて…

〔例題三〕　次の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを後の選択肢から選べ。

①　御使ひして申させ給ふ。

②　長き爪して眼をつかみつぶさむ。

③　むつまじき四五人ばかりして、まだ暁におはす。

ア　手段　　イ　共同　　ウ　使役の対象

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「にて」の用法

①　場所・時間
②　時刻・年齢
③　手段・方法
④　原因・理由
⑤　**資格・状態（〜として・〜で）**

（例）ただ人にておほやけの御後ろ見をするなむ、行くさきも頼もしげなること。

※「にて」の識別

体言
連体形　｝＋にて

（例）四位ばかりにて失せにし人の子なり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第九講　接続助詞⑵／「て」の識別／格助詞

① 「ものも言ふで帰りぬ。」の「言ふ」の活用形として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

1　言は　　2　言ひ　　3　言ふ　　4　言へ

② 次の傍線部と文法的意味が同じものを、後の中から選べ。

いみじう若うをかしげなる男の、烏帽子・直衣なるが、物も覚えず泣き惑ふさま、…

イ　頭白き女の水汲めるなむ、前よりあやしきやうなる家にいりける

ロ　世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし

ハ　そこらの人の誇り、恨みをも、はばからせ給はず

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　模範解答

〔例題一〕①ア　②エ　③イ　④ウ

〔例題二〕①エ　②イ　③オ　④ア　⑤ウ

〔例題三〕①ウ　②ア　③イ

問一　③

問二　エ

問三　②

問四　2

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第九講　接続助詞⑵／「て」の識別／格助詞

〔解説〕

①　**活用形＝下**を確認。下が「**で**」で、「**で**」は**未然形**接続。「言ふ」（＝ハ行四段活用）の未然形は「言は」。よって、正解は1。

②　格助詞「の」の単発問題は、まず「**同格**」から考えるのがポイント。「の」の下をざっと見て**連体形**を探すと「なる」が連体形。その直後に「の」の上の体言＝「男」を入れて、「の」を「で」と置き換えて訳してみる。「たいそう若くすばらしい男**で**、烏帽子・直衣姿である**男**が、物も考えられず泣きまどう様子、…」とおかしくないので、やはり同格。選択肢イも「水汲め**る**」の「**る**」が助動詞「り」の**連体形**。その直後に「の」の上の体言＝「女」を入れて訳してみる。「髪の毛が白い女**で**水を汲んでいた**女**が、前から（来て）みすぼらしい家に入った」と訳しておかしくないので、これが同格。よって、正解はイ。ちなみにロは主格、ハは連体（修飾）格の「の」。

〔解答〕

①　１　　②　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。